

特集 犠牲になる動物たち

多頭飼育・アニマルホーダー

最近、多頭飼育とかアニマルホーダーと言った言葉を耳にする方も多いかと思います。過去にも多くの多頭飼育問題が起きていますが、無責任に動物を増やしてしまう飼い主「アニマルホーダー」。飼いきれない数の動物を所有し、十分な世話をせず、結果、動物を虐待しています。札幌市動物管理センターや北海道内の保健所でも、多頭飼育による犬や猫の放棄が相次ぎ、何の罪もない動物たちが犠牲になっています。アニマルホーダーは、日本だけでなく、諸外国でも社会的な問題となっています。

多頭飼育・アニマルホーダーとは

ホーダーとは、ゴミや物を捨てられずに集めてしまう病理のある人に対して使われる専門用語で、劣悪多頭飼育者のこととアニマルホーダーと呼びます。つまり異常なほどの動物コレクターを指します。面倒を見ることが出来る範囲を越えた動物を有し、健康管理など十分なケアが出来ず、栄養不良や不適切な飼育により、結果動物を虐待する行為と言えます。また、本人にその意識がないことが状況をさらに悪化させます。今までのアニマルホーダーに対する見方は、趣味の域で有害でなく、その人の精神状態の問題でもなければ、動物たちが多大な被害を受けているという考え方すら希薄でした。メディアも病理としてではなく、いい人という報道すらあり社会に混乱を生じさせました。

アニマルホーダーの4つのタイプ

✓ 過剰な世話タイプ

動物だけが唯一の話し相手という、多くは社会から孤立している状態の人です。はじめは何匹かの動物を世話するだけなのですが、繁殖のコントロールをしないで飼い続けるうちに、動物の数があつという間に増えはじめ、又、自分自身が高齢であったり病気になつたりすることで、動物の世話どころか、不衛生な状況を自分で認識することもできず、加えて相談できる人もなく、結局どうしようもない状態に陥ってしまいます。

✓ 動物救助者タイプ

社会から孤立しているわけではないのですが、動物を救うことが自分の使命であると頑なに信じ、一匹でも多くの動物を救おうと活動します。自ら積極的に不幸と思われる動物を集め、結局その数が増え続けることにより、スペース、食餌、衛生状態、ケアや医療措置において適した環境での飼育が困難になります。

✓ ブリーダータイプ

犬、猫などをショーに出すことや、売買することを目的で繁殖させるのですが、思うように売れなかつたりすることで、いつのまにかコントロールを失ってしまうというタイプです。

✓ 摾取者タイプ

自分のエゴだけで愛情もないのに(物を衝動買いするように)好き勝手にたくさんの動物を飼い、ケアや医療措置においてもほったらかしで、それに対して何の罪悪感もなく、自信のある態度で平気で嘘つき、社会的にはなんら問題なく生活していたりするので、発見されにくく、一番厄介と言えます。

！ご注意ください！偽善者への支援が動物たちを苦しめています！

善意のレスキュー活動を名乗り、シェルターと称して動物を抱え込み、管理可能な限度を超えた動物を飼育(収集)している過剰多頭飼育者もいます。実態は、最低限の給餌や衛生面での配慮、居住スペース、獣医療等の提供も出来ないので、状況の悪化に対する危機感が希薄で、動物を飼い続け増やし、何も知らない人の善意の搾取を目的に、可哀想な状況の動物を利用します。

アニマルホーダーの精神性

アニマルホーダーは、外からの介入者に対して疑心暗鬼になる人が多いのが特徴です。動物愛護家とアニマルホーダーの違いは、アニマルホーダーは新しい飼い主探しをほとんどせず、愛護団体がアニマルホーダーを手伝おうとしても通じない、手伝っても状況が改善しない場合が多い状況です。また、『責任を他人になすりつける・メディアや世間一般に動物好きという顔を売り込む・自分は動物のためにしている・動物なしでは生きられない』と言います。アニマルホーダーを精神科の疾患を当てはめるなら、脅迫神経症(OCD)と言われています。OCD症例のうち約2割に収集癖があり、動物の収集をする人もいます。

アニマルホーディング(Animal Hoarding)の解決策

“アニマルホーディング”とは、たくさんの動物を居住スペース、食餌、衛生状態、ケアや医療措置において、適さない環境で飼育、動物にも人間にも問題があることを自分で認識できない病的な飼い主(アニマルホーダー)の状況を言います。「アパートの一室から汚臭がする」と近所の人が警察に連絡したり、たいていの場合は汚臭や鳴き声など近所の苦情から、アニマルホーディングが発覚します。しかし、動物保護団体、役所の獣医も飼い主の承諾なしには敷地内に勝手に入ることはできず、そうするには所定の法的手続きを経る必要があって時間がかかるため、その間に動物をどこかに隠されたり、最悪の場合は死亡するケースも増えています。アニマルホーディングは、最近注目された問題で、行政や動物保護団体、獣医師会、警察などが協力し解決していく必要があります、長期的な対策が必要です。例えば、突然襲ってくる自然災害発生時には、人の避難に合わせ、ペットの避難施設や獣医師等の専門家を置くことなどを緊急検討しますが、アニマルホーダーの場合は、それに加えて犯罪としてどのように告発していくか、精神衛生の専門家をどこで介入させるかを考えます。アニマルホーダーである飼い主の心の治療を行うことなしには解決できない問題といえるでしょう。アニマルホーダーは終生、監督や管理体制のもとに置かなければ、動物を取り上げてもほぼ全員が同じことを繰り返す根深い問題と言えます。

愛護かネグレクトな過剰飼育者かの判断基準！

- ✓ 避妊・去勢手術を行い自家繁殖をしていないこと
- ✓ 給餌や衛生面、居住環境を整えていること
- ✓ 獣医療等、ケアを積極的に行っていること
- ✓ 積極的に譲渡活動を行い、全ての動物の情報を公開していること
- ✓ ボランティアなど協力者の受け入れを行っていること

ランダル・ロックウッド博士(米国人道協会:HSS)が2004年の動物との共生を考える連絡会主催のセミナーにおいてアニマルホーダーについて

講演された内容から…

■ホーダーの定義

- ◎多数の動物を飼育している(何頭かは一概には言えない)。
- ◎動物に対し、最低限の栄養、衛生状態、獣医療が提供できない。
- ◎動物の状況悪化への対応ができない。
- ◎環境悪化に対応できない。
- ◎本人や同居人の健康や幸せにマイナス効果が生じていることに対応ができない。

■ホーダーの特質

ホーダーには、不妊・去勢する人が非常に少なく、自家繁殖で終りのない悪循環になる。犬も多いが猫の場合が一番ひどい。各個体に割ける時間が削られ、ほとんど動物病院に連れていくなくなる。

参照：社団法人日本動物福祉協会 JAWS レポート

※記事はインターネット等を参照いたしました